


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 島根県・大田市 】

学校名【 大田市立高山小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童33名 保護者24名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育 前田将良さんの体操教室) ② 行事名(人権研修会・ボッチャ体験) ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックに関する理解を深めるとともに、生涯に渡ってスポーツに取り組もうとする意欲を育てる。 ・オリンピック・パラリンピアン講話を聴くことで、スポーツを通して感じたことや、目標をもつことの大切さに触れ、今後の活動に生かすことができるようにする。 ・ボッチャを体験することを通して様々なスポーツへの関心を高める。 ・器械運動の技能の向上と、今後の体育学習への意欲を高める。
5 取組内容	<p>【人権研修会・ボッチャ体験】</p> <p><概要></p> <p>学習公開日(人権週間)の取り組みとして位置付けた。5校時に各学級で人権に関する公開授業を行った後、児童・保護者・職員を対象に山口県障害者スポーツ協会会長の藤田英二氏に講話をしていただいた。(感染症対策のためオンラインでの実施となった。)講話の後、藤田氏にボッチャの指導をしていただき、チームに分かれてボッチャ体験を行った。</p>
	

	<p><講話内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジドスポーツについて ・誰もが試練を与えられていて、それを乗り越えるという気持ちをもつことが大切 ・パラリンピックの映像 ・東京パラリンピックのお話 ・誰もが楽しむことができるボッチャの魅力 <p>【前田将良さんの体操教室】</p> <p><事前></p> <p>児童の意欲を高めるために、体操教室に合わせて、全校で器械運動系の学習を行った。また、事前アンケートによって児童が教えてもらいたいことを調査し、前田氏に伝えた。</p> <p><概要></p> <p>1・2校時を1・2年生対象、3・4校時を3～6年対象として、2ブロックに分けて体操教室を開催した。</p> <p>はじめは、前田氏の現役時代の映像を見たり、事前アンケートに答えていただいたりしてお話を聞いた。その後、マット、跳び箱、鉄棒の順に、「きれいな演技」のこつを教えていただいたり、模範演技をしていただいたりしながらできる演技に挑戦した。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020の後の事業ということもあり、オリンピック・パラリンピックに対する興味や関心がこれまで以上に高まった。 ・オリンピック・パラリンピアンのお話を聞くことで、挑戦することやあきらめずに努力を続けることの大切さに気付くことができた。 ・パラスポーツに対する理解が深まった。 ・児童や保護者同士の交流の機会となった。 ・器械運動に対しての意欲向上につながった。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にボッチャの道具を借りて体験したり、体育学習で同じ時期に器械運動の学習をしたりして、児童の意欲を高めた。 ・保護者とともに学び、体験することができるよう、人権週間の取組に合わせて事業を実施した。 ・毎年、市の体操大会に向け、全校で器械運動に力を入れて取り組んできたことから、体操教室を計画した。 ・体操教室において、下学年と上学年の2ブロックに分けて実施し、児童の実態に合った技を学習できるようにした。 ・児童の運動量が十分にあるように日程や内容を工夫した。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍ということもあり、県外の講師を呼ぶことが難しかったが、オンライン講話をすることができたので、現役の選手とかかわりがもてるよう工夫することもできたのではないかと考える。 • 今年度は東京2020があったので、児童の意欲も自然と高く保つことができたが、今後は事前学習をどのように行うかということも考えていかねばならない。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の取組をきっかけに、児童の体力向上につなげることができるようになりたい。体育学習を中心として児童が運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを愛好する態度を育てていきたい。